

令和4年度 上河内中央小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む） ※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

（1）基本目標

「人間尊重の教育」を基盤に、21世紀の担い手として「心身ともに健康で主体的に考え表現でき、粘り強く頑張り抜き、自らの向上とよりよい社会の発展を目指し、たくましく生きる人間」の育成を図る。

（2）具体目標 <目指す児童像>

よく考え、学ぶ子ども（知） 自分を見つめ、つくせる子ども（徳） 明るく、たくましい子ども（体）

【合 言 葉】 かしこく・やさしく・たくましく

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

自他の幸せの実現を目指し、変化の激しい21世紀を力強く生き抜くたくましい子供の育成を目指す。また、家庭や地域との一層の連携・協議を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。

<目指す学校像> 地域に愛され信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

未来を担う子供を育て地域に愛され信頼される学校

- （1）児童一人一人のよさや可能性を認識し、認め合い、学び合い、高め合う集団づくりに努める。
- （2）児童が学ぶ喜びを感じられるよう、不断の授業改善を行うとともに学習習慣の形成を図る。
- （3）豊かな心や創造性ととともに自らの目標の実現に向けて粘り強く努力する心と体のたくましさを涵養する教育活動を推進する。
- （4）教職員が、チームの一員として連携・協働しながら指導力を向上させるとともに、勤務時間を意識した働き方を進める。
- （5）校内体制及び家庭との連携充実により、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。
- （6）「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」（以下「地域協議会」）を充実させ、地域とともにある学校づくりの推進に努める。

【上河内地域学校園教育ビジョン】

かしこくたくましいゆずっ子の育成 ～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

- （1）日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領に示された教育の目標や内容、県・市の学校教育の重点、努力の方向に基づき、更には地域社会や児童の実態等を十分に把握し「人間尊重の教育」を基盤に、調和と統一のある教育活動を積極的に推進する。
- （2）心身の発達段階や特性・子供の育成に関わる多くの関係者の願いを考慮し「未来を担う子供を育て地域に愛され信頼される学校」を目指す。
- （3）学習指導要領の原則を踏まえ、教育内容の質的・量的な充実を目指した学習指導を展開し基礎的・基本的な事項の定着と個に応じた学習活動の展開の充実にも努める。
- （4）各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間・外国語活動などの関連を図り、調和と統一のとれた編成に努める。
- （5）前年度活動の評価等、地域社会の実情・児童の実態等を踏まえ、柔軟な指導の形態・指導法の工夫・教育資源（人・地域・機関等）の活用につとめ、一人一人の教育的な課題がより確かに解決が図られるよう展開を工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

- ・全教職員が、教育目標「かしこく」「やさしく」「たくましく」の実現のために、同じ方向に向かって取り組むチームづくり
- ・教職員一人一人がチームの一員としての自覚をもち、自分の能力を発揮するとともに、お互いに助け合い、励まし合い、教え合って成長し合うチームづくり
- 校内研修及び地域学校園研修を中心とした教職員の資質・能力の向上
- ・地域の教育資源等を積極的に活用した地域とともにある学校づくりの推進
- ・業務の内容や量の見直しによる、教職員一人一人の勤務時間の意識化とワークライフバランスの調和の推進

【学 習 指 導】

- （1）主体的・対話的で深い学びを実現する授業研究
 - ・上央小授業スタンダードの実践による授業実践（一人一授業）
- （2）基礎・基本の確実な習得（漢字・計算）
 - ・担任と学力向上指導員、かがやき指導員等との連携による、基礎・基本の定着を目指した効果的な学習指導の実践（授業・朝の学習・休み時間）
 - ・上央小漢字検定・算数検定の活用（授業、朝の学習、休み時間等の活用により、全員の合格を目指す。）

- 家庭学習の習慣化促進（基礎・基本の定着につながる内容の工夫）
- （３）読書習慣の定着を図る取組の推進（週に一人一冊以上）
- 【 児 童 指 導 】
- （１）進んであいさつする児童の育成
- ・校内の廊下（教職員、来校者）や地域（ボランティア）でのあいさつ推進
 - ・児童会を活用したあいさつ励行の推進
- （２）児童のよさを認め励ます教育の推進による自信や自己有用感の醸成
- ・児童同士及び先生からの誉め言葉（全員が対象となるように）
- いじめを許さない規範意識や正義感、思いやりの心の育成
- ・スマホ使用のルール徹底など情報活用能力の育成
- （２）不登校児童等、多様な児童に対する保護者や関係機関と連携した組織的対応の充実
- 【 健 康（体力・保健・食・安全） 】
- （１）体力
- ・運動量の確保・運動技能の向上を意図した体育授業の実践
 - ・運動の日常化の推進
- （各種運動検定の活用、各種運動強化月間の実施、ミニマム達成率の向上を目指した取組）
- ・学校行事等を活用した体と心のたくましさの涵養
- 投力や持久力などの体力向上及び姿勢の指導徹底
- （２）保健
- ・自ら感染症対策に取り組む児童の育成
 - ・健康指導の推進（学校伝染病や熱中症予防対策の充実）
- （３）食育
- 食に関する指導の充実（バランスのとれた食事など望ましい食習慣の形成）
- （４）安全
- ・登下校時の安全指導の徹底

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童 90%以上 児童 92.1%	① 授業では、「学習のきまり」を全校で徹底し、上央小漢字検定・算数検定を活用するなど、基礎・基本の定着を図る。 ② 一人一授業の取組等を通して、主体的・対話的で深い学びの場を設定し、学び合いを通して、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら、自分の考えを表現できる児童を育て、深い学びの実現に努める。 ③ 「話の聞き方・話し方」については、全教育活動を通して、学年の発達の段階を踏まえつつ、全職員による共通理解のもとで育成する。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 92.1%で指標を達成した。 ・教職員の肯定的回答率においても 96.0%と、授業で基礎・基本の定着を図るとともに、自分と友達の考えを比較させたり関連させたりしながら主体的・対話的で深い学びの実現に努めている成果と考えられる。 ・上央小授業スタンダードを活用し、はっきり・じっくり・すっきり学習過程の工夫を意識して授業を行ったことが効果につながった。 【次年度の方針】 ・①②ともに、学習問題やめあてを自分の課題としてとらえ、見通しを立ててじっくり自分の考えをもち、書いたり話したりすること、それらを基に必要に応じて話し合い、自分の考えを再構成し、まとめ振り返るという学習を展開していく。また基礎・基本の定着を図るために家庭学習を一層充実させていく。 ・落ち着いた環境の下で、真剣に学習に取り組むことの重要性を全職員で共通認識した

			上で、今後も研究を継続していく。さらに、「話の聞き方・話し方」の掲示物等を活用し、発達の段階に応じた考えを深める聞き方・話し方ができるようにしていく。
A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童 90%以上 児童 91.0% 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 教職員 90%以上 教職員 100%	① 道徳教育指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 91.0%，教職員 100%で、ともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ①②については継続して実施する。 ③については、全職員が共通理解のもとに一貫性のある指導ができるようにする。
	② 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。	B	
	③ 児童会活動や清掃における縦割り班活動を通して、思いやりの気持ちをもって助け合い協力する態度の育成をする。	B	
A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童 90%以上 児童 85.3% 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 保護者 90%以上 保護者 91.7%	① 児童が正しく判断し責任ある行動がとれるよう、その姿を「上央っ子の誓い」「上河内中央小学校の約束」「上河内中央小学校の一日」「校庭での約束」に示したり、家庭に配付したりして学習と生活のきまりの徹底に努める。また、児童自身が規範意識の改善へ主体的に取り組めるよう、代表委員会を中心に働きかけを行う。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 85.3%で指標には届かなかった。保護者は 91.7%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、引き続き朝の会や帰りの会で「上央小の約束」「上央小の一日」を取り上げ、定期的に振り返る機会を設けるとともに、放課後・休日等の過ごし方について、家庭と連携を図りながら、より良い生活の習慣が定着できるようにする。 ②については、生活当番の教員が巡視した際に、必要に応じて放送で注意を促したり、児童指導主任に報告したりして共通理解を図り指導に役立てていく。 ③については、今年度の反省を踏まえ、児童の主体的行動を育成できるよう各種避難訓練の内容改善を図る。また、情報モラルに関する計画的な指導を各学級で実施するとともに、家庭や地域への情報発信等、これまで以上に連携して危機意識を高めていく。
	② 生活当番は、秩序があり安全な学校生活を実践できるよう生活目標を設定し、掲示や放送、校内巡視などを行って指導を徹底する。	B	
	③ 避難訓練(火災・地震・竜巻・弾道ミサイル・不審者)、交通安全教室、緊急引渡し訓練の実施や「スマホ・ケータイ宮っ子ルール共同宣言」への理解や「フィルタリング設定100%キャンペーン」における学校の取組等を通して、児童や保護者に対して正しい使い方とマナーを発信し、情報モラル教育を推進し、危機管理能力を高める。	B	
OA 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童 90%以上	① 児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり、年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら、日々の生活指導の中であいさつや返事ができる子の育成を目指す。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 95.7%で指標を達成したが、保護者は 82.6%で指標には届かなかった。 【次年度の方針】 - 学校独自の取組として、自発的なあいさつの態度や正しい言葉づかいを認め励ます

児 童 95.7% 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 保護者 90%以上 保護者 82.6%	② 学年・学校だより等に、学校でのあいさつの様子を掲載して保護者へ紹介していく。 ③ 各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。	B B	「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰を実施しており、次年度も継続して取り組んでいく。 ・児童会を中心に、あいさつ運動を実施する。 ・校内での日常のあいさつや各行事等での実践の他、各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。 ・学年・学校だより等に、学校でのあいさつの様子を掲載して保護者へ紹介していく。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児 童 90%以上 児 童 91.7%	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けたり、キャリアパスポートを積極的に活用したりするとともに、担任も認め励ます指導に努める。 ② 各教科の授業や各種検定等において、児童が目標をもって取り組む機会を設けるとともに、目標の達成に向けて努力している児童を称賛する。 ③ 道徳や学級活動の授業において、目標をもって粘り強く取り組むことの大切さに気付かせるとともに、そうした実践に向けた意欲を高める。	B B B	・児童の肯定的回答率 91.7%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、学級において、がんばりやよさを認め、称賛される活動を取り入れる。 ・②については、児童が学習活動を振り返り、学びを通じた自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートと各種検定を積極的に活用する。 ・③については、児童の小さな努力の積み重ねを紹介したり、表彰したりする場を設定し、実践に向けた意欲を高めていく。
○A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児 童 90%以上 児 童 89.2%	① 児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、学級活動、体育、学校行事と関連を図った保健指導や日常の生活指導を行い、さらに各種便り等で保護者に啓発指導を行う。 ② 学校給食と各教科等との関連を図った指導のもと、学校栄養士とも連携し栄養のバランスのとれた食事や望ましい食習慣の形成を図る。 ③ 危機を予測し自らの命を守り抜く行動力を育成するため、日常指導における安全指導を充実するとともに、交通安全教室、避難訓練等を計画的に実施する。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 89.2%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②継続 ・①については、感染症や熱中症対策について、全職員の共通理解のもと継続的に指導を行う。また、各種便り等で保護者に情報を発信していく。 ・②については、学級活動や家庭科など、学校栄養士の専門性を生かした授業を各学級で実施し、バランスよく食べることの大切さを学年に応じて指導する。 ・③については、安全教育年間指導計画に位置付け、日常指導や各活動を計画的に実施し、自らの命を守り抜く行動力を育成することができるようにする。また、各種便り等で保護者に情報を発信していく。
A7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】	① 宮・未来キャリア教育年間指導計画に基づき、児童が自らのよさや個性を生かすとともに様々な人とかかわりながら、集団の一員とし	B	・児童の肯定的回答率 91.7%で指標を達成した。 ・田植えや稲刈り、5学年の総合的な学習の時間での蕨すぐり、ぼうじぼ作りなど、地

全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童 90%以上 児童 91.7%	での役割に取り組もうとする意欲を、全教育活動を通して意図的・計画的に育む。 ② 家庭や地域社会との連携による体験的活動を実施し、児童が将来の夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B	域との連携による体験的活動が定着している。さらに今年度は、3学年の社会や総合的な学習の時間においても、いちご農家の仕事や梵天祭りの学習などで地域の協力を得ることができた。 【次年度の方針】 児童が学習活動を振り返り、学びを通じた自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートを積極的に活用する。 【再掲 A5】
A8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、外国語科・外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童 90%以上 児童 88.8% 「児童は、外国語科・外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 教職員 90%以上 教職員 96.0%	① 外国語科・外国語活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ② 外国語科・外国語活動に関する校内研修や授業について意見を交わす機会を充実して指導力の向上を図る。 ③ 朝の会等で、英語であいさつや会話をする機会を設け、児童が日常生活に英語を使う場を設定してコミュニケーション意欲の向上を図る。	B B C	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 88.8%で指標に届かなかったが、教職員は 96.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、外国語指導助手(A L T)の活用により授業を充実させるとともに、授業以外の時間を利用した A L T との交流などにより、英語でのコミュニケーションを図る機会を充実させる。 ②継続 ③授業の中で、英語によるコミュニケーションを積極的に図る活動を工夫する。
A9 児童は、宇都宮のよさを知っている。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、宇都宮のよさを知っている」 ⇒児童 80%以上 児童 84.5% 「児童は、宇都宮のよさを知っている」 教職員 80%以上 教職員 92.0%	① 生活科、社会科、総合的な学習の時間の授業や、市内や地域での校外学習等において、学習内容に関連させながら児童が身近な地域や宇都宮市のよさに気付く指導に努める。 ② 教師自身が宇都宮市の歴史、文化、伝統産業、特産物等について理解を深められるよう努める。	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 84.5%で指標を達成した。教職員も 92.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 「宇都宮学」の内容及び指導方法等について校内研修などを行い、教職員が適切に指導できるよう共通理解を図る。
A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童 90%以上 児童 91.0% 「児童は、I C T機器や図書	① 児童が個人用パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業や家庭学習において積極的に I C T 機器を活用する。また、I C T を活用して授業の実践例を互いに紹介し合い、教師の指導力向上に努める。 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 91.0%、教職員は 100%でともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、一人一台端末の授業や家庭学習における効果的な活用方法について情報を収集し、全職員で共通理解して研修を進めていく。 ①②については、個人用パソコンや情報通

等を学習に活用している」 教職員 90%以上 教職員 100%	実等、学校図書館の環境整備に努める。 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書だよりの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。	B	信ネットワーク、学校図書館など情報手段を活用するために必要な環境を整え、校内での共通理解を図った上で、年間指導計画に基づき活用していく。学校図書館教育年間指導計画やプログラミング教育年間計画の活用を行う。また各教科・領域及び各学年相互の関連を図って計画的に指導できるようにする。 ・③継続
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童 90%以上 児童 91.0% 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 教職員 90%以上 教職員 100%	① 体験活動と関連を図った道徳科の授業を実施し、生命や人権を尊重する心や、人を思いやる心などを涵養する。【A2②再掲】 ② 道徳教育年間指導計画に基づき、全教育活動を通して道徳教育を計画的に実施する。【A2①再掲】 ③ 地域の方や高齢者と交流する機会を設け、感謝や相手を思いやる心を育む。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率 91.0%, 教職員 100%で、ともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①②については継続して実施する。 【再掲 A2】 ・③継続
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童 80%以上 児童 87.4% 「児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている」 教職員 80%以上 教職員 80.0%	① 総合的な学習の時間等における環境教育等を通して、環境問題への関心を高め、環境と調和しながら生きる意識や態度を育成する。 ② 「持続可能な社会」について児童の関心を高めるため、SDGsに関わる内容を授業等で積極的に取り上げる。 ③ 東日本大震災をはじめとした過去の災害の具体事例から学ぶ教材を工夫し、防災教育を充実する。	B B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.3%, 教職員は 80.0%でともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間を活用し、環境や食をテーマとして地域や世界の学習素材を活かしながら、教科横断的な学習を実践していく。 ・道徳科のほか、社会、理科、家庭科等の教科指導の中で考える視点として積極的に取り上げる。 ・学校行事等で取り上げ実践していく。
O B1 児童は正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、時と場に応じた言葉づかいをしている」 ⇒児童 90%以上 児童 85.3% 「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 82.9%	① 相手の気持ちを考えた言葉づかいや場に応じた言葉づかいができる子の育成を目指し、生活と学習の両面から日常の指導を充実させる。 ② 児童会によるあいさつや正しい言葉づかいの励行や呼びかけをしたり、年3回の「あいさつ・言葉づかい名人」表彰や、地域協議会の挨拶運動や児童によるあいさつ運動で意識を高めたりしながら、日々の生活指導の中であいさつや	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.3%, 保護者は 82.9%で指標に届かなかった。地域住民は 93.8%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・授業中や大人と話す際の正しい言葉づかい、職員室への入室の際のあいさつの仕方、休み時間の会話における言葉づかい、日常的に「さん」付呼称の仕方等、様々な場面で望ましい言葉づかいの例を示したり、正しい言葉づかいができていく児童

「児童は、大人に対して適切な言葉づかいをしている」 地域住民 90%以上 地域住民 93・8%	返事ができる子の育成を目指す。 【A4①再掲】 ③ 朝の会や帰りの会、学校行事、学級活動等で、時や場に応じた適切な言葉づかいができるよう、学年の発達の段階に応じた指導をする。学級懇談会や個人懇談会等でも、言葉づかいについて話題に取り上げる。	を称賛したりして、教職員の共通理解のもとで徹底して指導に当たっていく。 ・学級懇談会や家庭訪問、個人懇談等でも「言葉づかい」について話題として取り上げ、家庭と連携を図り指導に当たる。 ・学校独自の取組として、自発的なあいさつの態度や正しい言葉づかいを認め励ます「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰を実施しており、次年度も継続して取り組んでいく。【A4再掲】
B2 児童は栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 学校独自アンケート 「児童は、好き嫌いなく給食を食べている。(きれいなものでも1口は食べている)」 ⇒児童 90%以上 児童 91・7% 「自分の子供は、好き嫌いなく食事をしている。(嫌いなものも一口は食べている。)」 ⇒保護者 80%以上 保護者 58・0%	① 学校栄養職員の専門性を生かし、担任と連携し給食指導の充実を図りながら食事のマナーを身に付けさせる。 ② 栄養バランスを考えた食事指導(嫌いな物も一口食べさせる給食指導の徹底)を行い、望ましい食習慣を育てる。 ③ 食事をとることの大切さについて、学年に応じた授業を通して理解を深め、お弁当の日や食味体験を活用したり、給食便りや学年・学級懇談会で保護者への啓発を行ったりし、自ら実践する態度を育てる。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は91.7%で指標を達成した。保護者は58.0%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・①については、学級活動や家庭科など、学校栄養士の専門性を生かした授業を各学級で実施し、バランスよく食べることの大切さを学年に応じて指導する。【再掲A6】 ・②③については、お弁当の日やおにぎりの日の事前指導を実施したり、給食便り等で保護者に対して、好き嫌いなく食べるものの大切さの啓発や人気メニューのレシピの紹介を行ったり、年2回行っている食事マナーチェックシートを活用し、学年・学級懇談会でバランスのとれた食事の大切さを話題にしたりするなどして、啓発をする。
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」について、関心をもっている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100%	① 特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全校で特別な支援が必要な児童に関する共通理解を図り、一人一人のニーズを踏まえた支援を組織的に行う。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。 ② 特別支援学級の児童はもとより、通常学級においても、必要に応じて個別の指導計画の作成し、それに基づく合理的な配慮を伴う指導に努める。	【達成状況】 ・教職員肯定的回答率 100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・特別な支援が必要な児童については、特別支援教育コーディネーターや児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。
OA14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」	① 「上河内中央小学校いじめ防止基本方針」やいじめ対策のための取組を学年・学級懇談会や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していくとともに、方針に沿っていじめの防止に努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は96.8%で指標を達成したが、保護者の肯定的回答率は86.0%で指標には届かなかった。児童の肯定的回答率の高さから、児童は教師がいじめを許さないという姿勢で指導していることを感じている様子が分かる。 ・学校の「いじめ防止基本方針」に沿った「い

⇒児童 90%以上 児童 96.8% 「学校はいじめ対策に熱心に取り組んでいる」 ⇒保護者 90%以上 保護者 86.0%	② いじめの早期発見・早期対応のため、いじめゼロを目指した定期的な無記名式アンケート調査の実施に加え、簡易的な記名式アンケート調査を実施して実態把握に努めるとともに、年に2回の教育相談を実施して問題の早期発見や信頼関係の醸成に努める。	B じめゼロ集会」等の取組を実施したが、各学年便り等での保護者への情報発信が十分ではなかった。 【次年度の方針】 ・いじめゼロ集会や、いじめアンケート、教育相談を通していじめの防止や早期発見に努めることや、いじめ対策のための取組を学校自由参観日や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していく。 ・いじめゼロ集会振り返りカードを通して、家庭において、いじめについて親子で話し合う機会を設ける。 ・年度当初の家庭訪問や夏休みの個人懇談、学年・学級懇談等で、交友関係の実態を保護者と共有し、よりよい友達関係の構築に努める。 ・いじめの早期発見・早期対応を心掛け、保護者からいじめの相談があった場合には、丁寧に対応する。
○A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切に、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童 90%以上 児童 96.4% 「教職員は、不登校を生まないう、一人一人の児童を大切にし、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100%	① 児童の自己肯定感を高められるよう、児童相互に認め合う場を数多く設けたり、キャリアパスポートを積極的に活用したりするとともに、担任も認め励ます指導に努める。【A5①再掲】 ② 教育相談、アンケート、Q-U調査等の結果を活用し不適応傾向のある児童の早期発見と不登校の兆候や傾向の児童に係る校内全体の情報共有を図り、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応する。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は96.4%、教職員は100%で、ともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、児童が学習活動を振り返り、学びを通じた自らの成長や変容を自己評価できるよう、キャリアパスポートを積極的に活用する。【A5再掲】 ・不適応傾向のある児童については、教育相談担当や児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。また、必要に応じてケース会議を開き、迅速かつ適切に対応できるようにする。 B
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」について、関心をもっている」 ⇒教職員 90%以上 教職員 100%	① 児童が、互いの国籍や文化の違い等認め合い尊重しながら生活できるよう、各教科の学習の中で扱うとともに日常的な指導に努める。 ② 外国人児童について全校で共通理解を図り、必要な支援やニーズを踏まえた支援を組織的に行う。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ・①については、人権を尊重する心や、人を思いやる心の涵養を目的に、日常的な指導に努める。 ・②については、外国人児童が学校に編入学してきた場合に備え、受け入れ体制づくりに努める。 B

A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 全体アンケート 「私は今の学校が好きです」 ⇒児童 90%以上 児童 92.1% 「学校全体に活気があり、明るくいいきとした雰囲気である」 ⇒保護者 90%以上 保護者 92.1%	① 「かしこく、やさしく、たくましく」の合言葉の浸透を図り、縦割り班活動や児童会活動を活用して、笑顔と活気のある楽しい学校づくりを進める。保護者に対して、学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ② 食農体験やぼうじぼ作りなどの特色ある活動で、児童が主体的に取り組める場を設定し、協力して活動させる。 ③ Q-Uの結果を分析し、支援が必要な児童を把握したり、日頃の観察をきめ細やかに行ったりして児童一人一人が生き生きと学校生活を送ることができる学級経営を行う。	B B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 92.1%，保護者は 92.1%とともに指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、活気のある雰囲気が醸成できるよう、縦割り班活動や児童会活動など児童が主体的に活動できる様々な取組を学校全体で推進していく。また、保護者に対して学年便りで、行事等での児童の活躍の様子を積極的に伝えていく。 ②③継続
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童 90%以上 児童 97.1% 「教職員は児童一人一人が理解できるように教材を工夫するなど、きめ細かな指導をしている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 85.8%	① 児童の関心や理解を促す教材開発と、授業のねらいの明確化、振り返りの時間の確保など分かる授業を目指した「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫に努め、1人1授業を通して共有化を図る。 ② 算数科において、習熟度別学習、少人数学習、TTを効果的に実施するとともに、かがやきルームやなかよし学級での個別指導等を通して、児童一人一人の学習状況に応じたきめ細かな指導をする。	B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 97.1%で指標を達成した。保護者の肯定的回答率は 85.8%で指標には届かなかったが昨年度より改善している。 ①②における「上央小授業スタンダード」による指導法の工夫や個に応じた指導など、学力向上のための各種の取組に対する児童の理解が深まりつつある。 ②については、担当者間で情報交換を密にし、分かる授業の工夫・改善に努めてきた。 【次年度の方針】 - 習熟度別学習や少人数指導については、単元に適した指導形態を柔軟に取り入れる。 - 授業の振り返りを基に意欲の継続を図るとともに、自学級やかがやきルーム等で、個に応じたきめ細かな指導を展開していく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上 教職員 96.0%	① 学校内において好ましい人間関係の醸成を図るよう努めることで、教職員と学校スタッフとが気軽に声を掛け合える雰囲気作りを行う。 ② 学校目標及び本年度の努力点について共通理解を図り、チーム学校として協働していくことで、同僚性を高められるようにする。	B B	【達成状況】 - 教職員の肯定的回答率 96.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 - 校内のOJTを促進し、教職員やスタッフの専門性を発揮する場を設けるなど、今後もチーム学校として協力して業務に取り組む。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】	① 学校の働き方改革の視点に立って教職員一人一人が、勤務時間を意識し、業務の効率的な実施や計画的な処理に努める。また、リフレッシュデーを年間計画に位置付け	B	【達成状況】 教職員の肯定的回答率 88.0%で指標に届かなかったが、昨年度より改善している。 【次年度の方針】

全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員 90%以上 教職員 88.0%	定時退勤を促進する。 ② 教職員の負担軽減に向け、学校の組織運営の改善や、各種行事等の実施方法の改善を行う。	B	・①②③継続するとともに、日課の変更、リフレッシュデー及びリフレッシュウィークを年間予定に位置付け、全職員で定時退勤の促進を図る。
	② 学習情報システムをはじめとした各種システムを効果的に活用し、業務を効率的に進める。	B	
○A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童 90%以上 児童 87.6% 「学校は、小学校と中学校が連携した『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 74.8%	① 6年生の乗り入れ授業・中学校訪問、小中合同あいさつ運動、宮っ子チャレンジなどの行事を通して、積極的な交流を図りながら活動を進める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.6%，保護者は 74.8%でともに指標には届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②を実施するとともに、小中一貫教育や地域学校園での活動や取組の様子を学年だよりや学校だよりで家庭や地域へ情報を発信していく。また、懇談会時にも話題にし、小中一貫教育・地域学校園での取組を伝えていく。小中合同挨拶運動、乗り入れ授業の時期を早めて、交流活動の意識を高める。冒険活動教室での合同活動で交流を図る。
	② 地域学校園全体研修会における各部会での情報交換を通して、各校が共通理解のもと課題に合った目標を設定し、連携・協力して指導にあたる。更に学校・学年だより、HPで発信していく。	B	
○A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 90%以上 児童 94.6% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 88.1%	① 学校支援ボランティアの活用や出前授業、校外学習などにおいて地域の人材や施設・設備等の教育力を生かした学習を充実させる。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 94.6%で指標を達成したが、保護者は 88.1%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②を継続して実施する。また、引き続き、家庭や地域への積極的な情報発信を行っていく。 ・地域コーディネーターとの打合せの機会を定期的にもつなど、さらに連携を深め、学年行事や校外学習、環境整備等の学校支援ボランティアへの協力依頼を積極的に行っていく。
	② 「魅力ある学校づくり地域協議会」において、児童の健全育成を目指し、見守り活動や昔遊びなどの学校・家庭・地域の連携を深める事業を通して地域学校共同活動を推進する。	B	
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童 90%以上	① 地域協議会を定期的に開催し、学校経営方針への保護者、地域住民の意見反映や、学校関係者評価の実施し地域とともにある学校教育を目指す。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 94.6%で指標を達成したが、保護者は 88.1%で指標に届かなかった。 【次年度の方針】 ・①②③を継続して実施する。また、引き続き、学年便りや保健便り、図書便り、学校便り等の各種便りで家庭や地域への積極的な情報発信を行っていく。
	② 校外での体験活動時の安全確保や、田植え、稲刈り、ぼうじぼ作りの学習支援の協力や参画を得て、学校支援ボランティアを有効に活用し、特色ある学校づくりを	B	

	児 童 94.6% 「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 88.1%	推進し、家庭や地域への積極的な情報発信を行う。 ③ 親子ふれあい学習や出前講座、伝統芸能教室等による体験的な活動を実施し、児童が夢や希望を描いたり、実現に向けて努力したりする態度を育成する。	B	
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者 90%以上 保護者 90.7% 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 地域住民 90%以上 地域住民 100%	① 日々校舎内外の巡視をするとともに、月1回施設・設備の安全点検を実施し、必要な箇所の修繕を迅速に行い環境の整備に努める。 ② 危機管理マニュアルを整備するとともに、避難訓練や引き渡し訓練等を通して、火事、地震、竜巻、不審者侵入等の不測の事態への備えを万全にする。 ③ 熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健指導管理に努める。	B B B	【達成状況】 - 保護者の肯定的回答率は90.7%、地域住民は100%とともに指標を達成した。 - 学校を利用するすべての人が安全に過ごせるよう、定期的な安全点検や防災気象情報の収集を行ってきた。 【次年度の方針】 ①②③継続するとともに教育に望ましい環境整備を進め、児童等の安全確保を徹底する。避難訓練等で外部の講師を招いて安全教育指導を充実させる。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童 90%以上 児童 91.0% 「児童は、ICT機器や図書等を学習に活用している」 教職員 90%以上 教職員 100%	① 児童が個人用パソコンや情報通信ネットワークなどの情報手段に親しみ、適切に活用する能力を育成できるよう、授業において積極的にICT機器を活用する。また、ICTを活用して授業の実践例を互いに紹介し合い、教師の指導力向上に努める。 【A10①再掲】 ② 各学年のその時期の授業内容との関連に配慮した教育図書の整備充実等、学校図書館の環境整備に努める。 【A10②再掲】 ③ 読書の時間や読み聞かせの時間、図書便りの発行などを通して児童の読書意欲を喚起する。 【A10③再掲】	B B B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は91.0%、教職員は100%で指標を達成した。 【次年度の方針】 ①については、一人一台端末の授業や家庭学習における効果的な活用方法について情報を収集し、全職員で共通理解して研修を進めていく。 ①②については、個人用パソコンや情報通信ネットワーク、学校図書館など情報手段を活用するために必要な環境を整え、校内での共通理解を図った上で、年間指導計画に基づき活用していく。学校図書館教育年間指導計画やプログラミング教育年間計画の活用を行う。また各教科・領域及び各学年相互の関連を図って計画的に指導できるようにする。 ③継続 【再掲 A10】
本校の特色・課題等	B3 児童は学級や縦割り班の活動などで仲よく助け合って生活している。 【数値指標】 学校独自アンケート 「学級やにこにこ班の活動では、友達や下級生と仲よく過ごしている。」 ⇒児童 90%以上	① 感染症対策に配慮した上で、日々の清掃活動や学校行事などで、縦割り班での活動の機会を設定し、学年の枠を超えて協力して仕事や活動ができるようにする。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率 94.6%で指標を達成した。 【次年度の方針】 - 各活動を継続するが、安全性、効率性を踏まえて、適切な内容について更なる改善を図る。

児 童 94.6% ○B4 継続的に家庭学習に取り組んでいる。 【数値指標】 学校独自アンケート 「私は毎日家庭学習に取り組んでいる。」 ⇒児 童 90%以上 児 童 88.1% 「児童は自主的に学習に取り組むなど、学習習慣が身に付いている」 教職員 90%以上 教職員 96.0% 「自分の子供は宿題など家庭学習に毎日取り組んでいる。」 保護者 90%以上 保護者 67.3%	① 職員間で共通理解を図り、児童が自主的に学習に取り組めるように自主学習ノートや音読カードなど、具体的な方策を立て継続して指導していく。 ② 年度当初に全家庭に「家庭学習のすすめ」を配付し共通理解を図り、家庭と連携する。児童には「家庭学習への取組ポイント」を示し指導し低学年(20分)、中学年(40分)、高学年(1時間以上)の家庭学習を実践させる。また、学期1回家庭学習強化週間を行い、よく取り組めた児童の家庭学習ノートを掲示することで、児童の意欲を高める。	B 【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は88.1%、保護者は67.3%とともに指標に届かなかった。教職員は96.0%で指標を達成した。 【次年度の方針】 - 年度当初に家庭学習の進め方や自主学習ノート作りの例を、時間をとって児童に説明し、継続的に実施できるように支援していく。また家庭学習のめやすの時間の検討も行う。 - 家庭と連携して、継続的に家庭学習の習慣が定着するように、年度当初の保護者会等で家庭への協力を依頼し、学年だより等で全体的な取組状況を伝えながら各個人懇談等で家庭での様子を確認していく。
---	---	--

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 学校運営について - 全体アンケートでは、多くの項目で市の平均肯定的回答率と同程度の結果となった。 - 学校の活気や明るさに関する項目 A17 では、全対象者において肯定的回答率が90%を超えていることから、一定の評価を得られたものとする。今後も、地域や保護者、職員間で情報を共有するなど、風通しの良い学校づくりに努めていきたい。 - 施設や環境の安全に関する項目 A24 では、全対象者において肯定的回答率90%を超える結果となった。施設設備の修繕や危機管理マニュアルの整備など、安全に配慮した環境づくりに努めてきた。また、熱中症予防対策、感染症予防対策など、時期に応じた保健管理を進めた成果と考える。 ○地域の教育資源等の積極的活用に関する項目 A22・23 では、全対象者において市の平均肯定的回答率を上回る結果となった。感染症対策のため縮小した活動もあったが、総合的な学習の時間や読書指導、食農体験活動、見守り活動などにおいて、地域や家庭の教育力を生かした活動を展開することができた。 ○小中一貫教育に関する項目 A21 では、児童や地域住民において市の平均肯定的回答率を上回る結果となった。ただ、児童の肯定的回答は昨年よりも5ポイント以上下回る結果となっているので、地域学校園内で学校運営に関する情報を共有し、さらに連携・協力を進めたい。 - 職員の勤務時間に関する項目 A20 では、昨年度の結果を5ポイント以上上回る結果となった。今後は、さらに働き方改革の視点に立ち、勤務時間を意識した効率的な業務改善に努めていきたい。 2 教育活動の状況について (1) 学習指導 - A1「児童は進んで学習に取り組んでいる」の項目では、児童の肯定的回答は90%を超えているが、保護者は昨年よりも5ポイント以上下回った。A18「わかりやすい授業や一人一人へのきめ細やかな指導」の項目では、児童の肯定的回答率が97.1%と高評価を得ている。また、B4「児童は自分から進んで学習する習慣が身に付いている」の項目では、保護者の肯定的回答率が教職員の肯定的回答率をおよそ20ポイント下回る結果となった。今後は、家庭学習強化週間等とおして、よく取り組めた児童の家庭学習ノートを掲示するなどをして学習意欲を高め、家庭と連携した学習習慣づくりに取り組んでいきたい。 - 宇都宮の良さに関する項目 A9、持続可能な社会に関する項目 A12 では、教職員の肯定的回答率が、昨年度を10ポイント以上上回る結果となり、市の肯定的回答率も上回っている。次年度はさらに、指導力向上のための研修を通して教職員の共通理解を図るとともに、系統的な指導内容を教育課程に位置付け、発達段階に応じた指導に取り組んでいきたい。 - 学習へのICT機器や図書の活用に関する項目 A10、A25 では、児童や教職員においての市の肯定的回答率を上回った。G

I G Aスクール構想への取り組みについて、引き続き積極的に進めていきたい。

(2) 児童指導

・縦割り班活動に関する項目 B3 では、全対象者において肯定的回答率が 90%を超えた。また、思いやりや優しさに関する項目 A2,A11 では、教職員や保護者、児童の肯定的回答率が 90%を超えている。今後も、児童が思いやりの気持ちをもって友達と協力して生活できるよう支援していきたい。

○あいさつに関する項目 A4 では、保護者や地域住民において市の肯定的回答率を下回った。ただ、児童の肯定的回答率は 95.7%で市の平均を上回っており、あいさつの仕方の指導が必要と考える。言葉づかいに関する項目 B1 では、地域住民の肯定的回答率が昨年度を 5 ポイント上回る結果となった。引き続き「あいさつ・言葉づかい名人」の表彰や日々の生活の中での正しい言葉づかいの賞賛など、継続的に言葉づかいの指導に取り組んでいきたい。

・いじめ対策に関する項目 A14 では、保護者や地域住民において市の肯定的回答率を上回った。また、不登校に関する項目 A15 では、保護者において市の肯定的回答率を下回る結果となった。今後も児童に寄り添った指導に努めるとともに、保護者との連絡を密に取り、SC や関係機関等と連携した支援を行っていきたい。

(3) 健康（体力・保健・食・安全）

・昨年度に引き続き、感染症や熱中症対策を中心に指導してきた。今後も家庭と協力・連携し、児童が自分の健康に気を付けて自ら健康を管理できるよう、日常生活指導を中心に取り組んでいきたい。

7 学校関係者評価

・「教職員」においては、概ねどの項目も市の平均を上回っていることから、学校運営に熱心に取り組んでいると考えられる。一方、「児童生徒」においては、児童生徒に関する項目 A1～A12 において、10 項目のうち 7 項目が市の平均を下回っているが、教職員及び学校に関する項目では、市の平均を上回る結果が出ていることから、自分に厳しく周囲に目を向けられる児童が多く育ってきていると推察できる。

・「保護者」においては、市の平均を下回っている項目が多いことから、コロナの影響による学校との関わりが変化したこともあるかもしれないが、次年度に向けては、見せ方など工夫する必要があるだろう。特に A22,23「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている」にあっては、他に比べ保護者のみが低いことから、周知方法を検討する必要がある。

・学校教育の要諦は、人が人として生きることへの習熟と考える。特に小学校教育の根底はそこにある。言い換えれば人生の基本的な態度の伝授に尽きる。項目にある「思いやりをもつ」「決まりやマナーを守る」「挨拶をする」「適切な言葉づかい」が極めて重要である。また、「いじめをしない、加担しない、させない」は絶対的な課題であろう。一人一人が生き生きとして登校することが及第点である。

・本校教職員は、ほぼ全項目にわたり、市の平均と同等ないし上回る結果となっており、日頃の努力に感謝している。

・授業参観での様子から、児童が教師の話をしっかり聞いていたり積極的に発言していたりする様子が見られた。日頃より先生方の子供たちを優先した学校のアットホームな雰囲気作りが感じられた。

・A2「児童生徒は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」の「地域住民」が昨年よりも低かったことは残念である。「ゆずっこウォーキング」や下校時も見守り時の様子では児童同士が思いやる様子が多く見られた。

・A3「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている」については、「教職員」及び「児童生徒」が低く、「地域」が高いことから、学校独自の決まりがあるのか、この格差を検証する必要がある。また、「児童」が昨年に引き続き、市の肯定的回答より低いままなのが気になる。公園内でのごみ捨てや生垣へのいたずら、道路での遊びなどルールやマナーが守れていない様子が見られた。家庭での注意が必要であると思う。

・「教職員」「児童生徒」における A4「時と場に応じたあいさつ」B1「時と場に応じた言葉づかい」の関係から、定型的な挨拶はできているが、会話としての言葉選びに不安があることが推察される。

・A4「時と場に応じたあいさつ」や A6「健康や安全に気を付けて生活している」については、「児童」の下校時の挨拶や自転車の乗り方などに関する安全への心掛け、その他、注意等の呼び掛けに対する素直な受け答えができていた。

・「時と場に応じたあいさつ」については、登校時の見守りボランティアへの挨拶が登校班によって差があるのが気になる。上級生が進んで挨拶をする班は、低学年児童も挨拶ができていますので地域として呼び掛けたい。以前に比べて挨拶ができる子が少なくなっていると感じられるのは、コロナ禍の影響によって、人付き合いが希薄になっていることも考えられる。

・A6「児童生徒は、健康や安全に気を付けて生活している」については、市の平均を下回っているため、特に安全への意識付けに力を入れてもらいたい。

・A5、A7「児童生徒は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」の項目では「教職員」100%、「保護者」78%と乖離に驚く。教職員の努力は多として評価もする。A1「話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」を含め保護者の視点や要求の高さとの差であろうか。

・A14「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる」の項目では「教職員」100%、「保護者」86%である。教職員の姿勢

や熱意は買うがその差である。いじめは今日的な最重要課題の一つであり、差別とともに永遠の課題かもしれない。それゆえに教育の根源として、永続的に努力を重ねなければなるまい。

・ A14「いじめ対策」 A15「不登校対策」 A18「分かりやすい授業や一人一人へのきめ細かな指導」は教職員の努力、児童の精進はあると思われるが、「保護者」の比較的厳しい評価が気になる。

・ B2「児童は、好ききらいなく給食を食べている」での「保護者」58%は低い。給食時のことだけでなく、家庭での食事が大切であることを周知すべき。(朝食抜きやパン、おにぎりのみの子がいることを聞いている)

・ B4「児童は、自分から進んで学習する習慣が身に付いている」での「保護者」67.3%と「児童」88.1%の乖離はなぜか。児童に「自主学習」を自分のためにやるべきものとしての意識させることが必要である。学校内では児童は努力しているのであろうが、家庭では親に言われてしぶしぶやることが多いと聞く。子供たちが家庭学習の意図と目的がもてるとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・ 昨年度の結果や市内の小学校の平均と比較すると、全体としては一定の評価を得られたものとする。地域住民の回答において、肯定的回答が市の平均より低く90%を超えていない A2「思いやりの心」、A4「あいさつ」、A6「健康や安全」に関する項目については、下校の仕方の改善や下校後や休日の過ごし方についても含めて、保護者、地域と連携して改善に努める。
- ・ A14「いじめ対策」については、いじめアンケートや教育相談を通して、いじめの防止や早期発見に努めることや、いじめ対策のための取組を学校自由参観日や各種便り等を通して計画的、継続的に保護者や地域に周知していく。保護者からいじめの相談には丁寧に対応し、問題の早期対応に努める。
- ・ A15「不登校対策」については、児童が不登校となった要因を的確に把握し、学校関係者や家庭、必要に応じて関係機関が情報共有し、組織的・計画的な、個々に応じたきめ細やかな支援策を策定するなど、教育相談担当や児童指導主任を中心に、全職員で協力・連携して指導に当たる。
- ・ B4「進んで学習する習慣」については、家庭と連携して、継続的に家庭学習の習慣が定着できるように努める。年度当初の保護者会等で家庭への協力を依頼し、学年だより等で全体的な取組状況を伝えながら、個人懇談等で家庭での様子を確認していく。
- ・ 日常のあいさつや各行事等での実践の他、各家庭や地域でもあいさつや正しい言葉づかいができるように懇談会等であいさつの啓発を行っていく。
- ・ 児童理解に努め、校内体制の整備及び家庭との連携により、多様な児童の状況に応じた指導・支援を充実する。

○「小中一貫教育・地域学校園」と「魅力ある学校づくり地域協議会」を充実させ、地域の教育資源等の積極的活用、「親学」の推進など、地域とともにある学校づくりの推進に努める。